

## 8月6日 全校で平和学習

野畑小学校では、毎年6年生の広島への修学旅行に合わせて、全校で平和学習に取り組んできました。6年生は社会科で歴史を学び、国語科で平和教材を学び、総合的な学習で、戦争・平和についての調べ学習やポスターセッションを行う。そして学んだことを音楽や朗読などで表現し、1年生から5年生の児童に伝え、全校で鶴を追って広島の平和記念公園で平和を誓うセレモニーを行ってきました。今年は修学旅行が中止になりましたが、夏休みが8月8日からなので、広島で平和記念式典が行われる8月6日に合わせて平和学習に取り組むことにしました。

8月6日の朝、6年生は、8時から教室に集まり、テレビ放送で広島の平和記念式典の様子を見ました。そのあと、体育館でコロナ対策のために6年生だけが集まり、間隔を2m以上あけて並び、マスクをしたまま同方向を向いて、全校に平和への思いを届けるために「平和のつどい」を行いました。体育館には、まだWi-Fiが整備されていないので、その様子を録画し、録画したものを学習サーバーから各教室に配信し、オンライン双方向配信で感想交流を行いました。



「平和のつどい」で「地球星歌」を歌う6年生の子どもたち。マスクをしたままでしたが子どもたちの清んだ歌声は体育館いっぱいに響き、感動的でした。マスクなしで歌わせてあげたい。心からそう思いました。

「平和の集い」の様子は、野畑小学校ホームページ・eスクールでも配信する予定です。ぜひご覧ください。



### 6年生が「平和のつどい」と「ポスターセッションをやり終えた後の「ふりかえり」に書いたものを紹介します。

初めて真剣に平和式典を見た。同学年の男女が大勢の人の前で話している姿は、私よりも大人びて見えた。

今日の平和記念式典を見て、平和についてよく考えさせられた。8時15分に黙とうしているとき「この瞬間に原爆が落ちたんだな。」と思い真剣に考えました。

「歌やポスターや鶴。」今まで平和について理解していなかった私ですが、それを通して私は、平和ってというのは、今、笑いあっている瞬間、ご飯をみんなで囲む食卓、学校に来れていること、今当たり前前なのが平和なんだって理解しました。歌も、私たちが一生懸命調べたことも、すべて5年生や被爆者の方に届けばいいな。みんなみんな、同じ人間。いじめしてる人を見かけたらだめだという。差別せずにみんなで仲良く遊ぶ。私たちが一番にできることは、周りの人と仲良く、周りをよくすることなんじゃないでしょうか。歌にはすごい力があると先生が言っていたけど、本当にその通りだと思いました。

戦争は、恐ろしい。たった10秒で町がやられる。ポスターセッションをやって、すごく戦争のことがよくわかった。いつも歌っていた地球星歌の歌詞の意味すごくわかる。今まで、6年生の平和をいくつも見てきたけど、今、自分が6年生になって、6年生が伝えたかった平和がよくわかった。今年は、修学旅行に行けなくて残念だったけど、行かなくても戦争のことについて学べた。

歌を歌うとき、ただ歌うのではなく、気持ちづくりをしてから歌うと、全然違う歌になったので、気持ちづくりは大切だと思いました。気持ちづくりをすることで、平和にもつながると思いました。朝、テレビを見て、音楽についての気持ちが変わっていたかもしれません。

今日の平和式典は、とても真剣に見ました。去年は、平和についても深く考えていなかったし、正直すごく昔のことだし関係ないと思っていました。でも、8月6日に何があったのかを知ってからとても身近に感じました。今の私があるのは、その人たちが生き残ってくれたおかげなので「平和」って何だろうと考えようと思いました。なので、私は、「平和な世の中を作る」という思いで歌いました。昨日には足りなかった思いを足していい歌声を出せました。毎年平和式典を行う意味が歌ってみて少しわかったような気持ちになりました。それは、二度と戦争を起さず、日本だけでなく世界中を平和に包み込みたいという意味だと思います。私も気持ちは全く一緒です。日本だけが平和でもそれは本当の平和ではないと思います。世界中が平和になって初めてほんとうの「平和」といえるのではないかと思います。

平和に関連した歌を学年で歌った後、ポスターセッションをした。普段は、温厚な人が残酷な描写をしていたり、クールなイメージの人が被爆者の気持ちに寄り添っていたりして、書いた人とポスターの内容のギャップに驚いた。

「あなたの…」のところ特に声が出ていて、きれいな声で学年の心がひとつになるのに、ちょっとずつ進んでいる気がして、私もすっかりうたわなきやいけないなって、雰囲気がよくて、歌いやすかったし、自分でも声をしっかり出せてよかったです。

今日は、「平和のつどい」「ポスターセッション」をして、一日平和について改めて考えました。これからは、平和に生きたい。小さなことから始まり、最後はケンカ、なぐり合い、下手したらころしあいになるかもしれない。経験したから言えるけど、最初は、すっきりするからやっていたけど、終わったあとは、だれもすっきりしないから、ケンカはしないほうがいいと思いました。

ほかの学年に、6年生全員の平和を歌う気持ちが届けられたと思う。みんなとても声が出ていたから、自分ももっと声を出さないといけないと思った。一生懸命歌っているときに、みんなと心が一つになれた気がした。

地球星歌は、アルトとソプラノにわかれていて、自分はソプラノだ。ソプラノは全体的に声が小さくて、アルトの声だけで歌っているようだったけど、練習の積み重ねでできる曲だと思って、みんなでがんばったら、8月6日まではできると願って、毎日練習した。練習で120%の力で歌わないと本番でいい歌を歌えなくなる。そしてむかえた本番。いい声大きな声で、態度もよくほめられ、1~5年生の見本になる6年生に一步近づいた気がした。これからも見本になれる6年生でいたい。

私は、一番最初の練習の時「なんでこんな暑い体育館なんかで歌の練習しないとかかんねん」と思っていたけど、歌の練習や戦争について調べている間に私の心は変わりました。今日は、みんな今までで一番素敵な声が出ていたと思います。そして私は、歌っているときにずっと「この豊中にも空襲があって、何万もの人々が苦しんだんだなあ」と思っていました。いつ大切な人や愛する人がいなくなるかもわからないので、一日一日を、その人やその場所を大切に守っていきたいと思いました。

先生がいろいろ教えてくれたし、いろんな先生が練習を見に来てくれたし、こんなにいい歌ができたのはみんなが協力してくれたからだと思いました。びっくりしたのは、あんまり練習できていなかった「青い空」をみんながすごく大きな声で自信をもって歌っていたことです。みんな自分だけじゃなくて、人のことも助けたり教えたりしていたので良かったです。

ふりかえりで書きました。「練習で本気を出さないと本番で本気を出せない」誰かその言葉で心が変わってくれたら。本番、みんなできていたかな。最後、心が一つになっていた。私は、なんかうれしかったです。前までバラバラだった心が一つになっていた。これが、卒業まで続いてくれたらうれしいです。「一人はみんなのために。みんなは一人のために。」